

# ASAP

## あきる野 多摩川学園 カンボジア校通信

NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)



子どもたち、オセロに初挑戦！

### CONTENTS

- 第11回教育支援ツアーを終えて  
長谷川理事長…P1
- 夢を見る勇気を  
留学生ノム ブンナリット…P3
- 卒業式に出席…P4
- 教育支援金支給の実地…P5
- ルムチェック・ムタイン中学校訪問…P5
- マザー・ツアー・マザー事業を通して  
親の考え方を改めて未就学児童中退者をなくす為に…P6
- ASAP 活動報告…P7～8
- 21年度通常総会のご報告…P9～10

2009.10

# Vol. 5

## 第11回カンボジア教育支援ツアーを終えて

理事長 長谷川 安年

平素よりカンボジア支援におきましてはご理解とご協力を頂き有難うございます。

去る8月24日(月)～30日(日)の一週間にわたり7名で第11回カンボジア教育支援ツアーを実地してまいりました。

シェムリアップ州ルムチェック村のトロク小学校及びタットム小学校訪問をはじめ、一般家庭の訪問、中学校視察、プノンペン の現地日本語学校、孤児院訪問、建設要請のあったワットタメイ小学校視察訪問等を終え、30日全員無事帰国しました。

ASAPは、校舎を寄贈することだけでは貧困な村の子ども達の就学になかなか繋がらないと言う事から、新一年生への制服支給、先生への教育支援資金支給、不足する教育物資の支援など、ソフト面の支援を継続しているという目的で活動を続けています。

「学校を○校建てました！」という派手さは無く、かなり地味な活動を続けることになりますが、毎年2回の訪問を実施し、先生や村民と交流を続けることで、「子供を学校へ！」という我々の熱意はじわじわと伝わり、現在両校の未就学児童はゼロになったという嬉しい結果として形に表われてきました。

こういった地道な支援活動を行なっていくには、現地への訪問が欠かかせません。この国には収賄、贈賄に対する法整備はされておきませんので、お金を渡した場合は目的

ためにどれほど使われるかわかりませんし、内戦に翻弄され、あまにも貧しく教育も受けてこなかった為に、寄贈されたものを修理し管理するという事もほとんど考えられていないからです。継続した支援の結果、近隣の学校に比べかなり教育環境が整ってきたといえるトロク小とタットム小ですが、支援が無くなれば校舎は管理されることなく朽ち果て、国の予算不足により教科書やノートが大幅に不足し、教師が途方にくれる状態に戻ってしまうことは明白であります。

また、入学したものの、中学までが義務教育となっているにもかかわらず4年生で半分が中退してしまう問題や、近隣小学校の貧困な教育事情問題等、多くの問題も残っています。

ASAPが継続した支援を続けていくことが出来ているのは、皆様からの支援によるおかげです。心から感謝をすると共に、活動を続けていく為にASAPの活動をもっと沢山の方に知っていただく努力をしていかなければならないと考えます。

ホームページも完成していますのでぜひご覧下さい。

(<http://www.tamagawa-kids.jp/asap/> または、「アジアの子どもたちの就学を考える会」とご入力下さい)

また、年に2回の現地訪問の際には、どなたでも一緒に参加していただくことも大

歓迎です。今回の訪問では、若い女性の方も2名参加し、小学校で子ども達にオセロゲームを教えるなど、積極的に現地の方達と交流をされました。豊かな現代に育った若い方がこのような体験を積極的にされる姿は本当に頼もしいものです。幸いなことに ASAP は日本に留学し筑波大学教育学部を卒業した現地職員がおりますので、既存の旅行では出来ない要望も実現するご協力も出来ます。

世界遺産アンコールワットのあるカンボ

ジア観光に行ってみたい方、カンボジアの生活を覗いてみたい方がいらっしゃいましたらぜひご紹介いただければと思います。

ASAP は皆様の支援を確実に形にするために、そして寄贈したものが継続して保守されるために、これからもできる限り現地訪問を続けて参りますので、引く続きのご支援をよろしくお願いいたします。

この度の訪問と合わせて、ASAP の近況活動報告をさせていただきます。



ツアー参加者 田村麻里様製作

# 夢を見る勇気を

一橋大学商学部修士1年ノム ブンナリットさん訪問報告書より



クメール語と日本語の翻訳を引き受けて下さっているカンボジアからの留学生ノム ブンナリットさん（一橋大学商学部修士1年）が2009年3月2~3日、副理事長池田五郎氏と両校を訪問し「夢を見る勇気」を子ども達に話ってくれました。彼の次の様な言葉が忘れられません。**「僕が自分の将来を人に語ったのは、留学のテストを受ける時が初めてでした。小学校の時は考えることさえありませんでした。（将来の夢どころか、将来の職業を考えるという体験さえなかったという意味）だから、こうやって小学校の時に夢を持つきっかけが出来るという事は素晴らしいことです」**

自分達と同じカンボジアの貧しい村出身の留学生が語る「夢を見る勇気」は私達日本人が語るどんなメッセージよりも深く子ども達の旨に届いたのではないのでしょうか。ブンナリットさんから寄せられた報告書を原文のまま紹介します。

## Thlorck & Tatum 小学校訪問の報告

**訪問の目的：**学校の観察、先生、生徒と親に話す事による生徒の動機をつけることが最大の目的。  
**小学校で何をやったかというと：**

5, 6年生を対象として、将来の希望とその理由について聞き、できるだけ勉強の動機となる将来の希望に変えてもらえる様に、自分ができそうもないから、希望したくないことがないように、自分の経験、どの様に日本に留学できたか、小さいときの希望は何か、幼い時に行っていた小学校はどういうところだったか、生徒達の反応を見ながら、将来の希望を高く設定してもらうように説明し、具体的に「素晴らしい夢を見る勇気」を巡って話しました。話した後、もう一度生徒に将来の希望を聞いて見た所、だいぶ留学したい生徒とか増えました。やっぱり子供は影響を受けやすく、白紙みたいに赤をつけたら赤くなると感じました。

**問題点：**

Thlorck と Tatum の村にはのんびりしながらの農家、テーラー、先生、屋台で小売りをする職業しかなかったため、生徒には「夢のイメージ」が足りないと思います。そして、勉強にまじめに勉強に取り組む子、あるいは勉強をしたくなる様な刺激が全くない様でした。私の観察では、カンボジアではどの学校でも勉強する子が何人かいたら、他の子もそれを見て、自分も勉強しようとするのがよく見られます。しかし、小学校のレベルでは一生懸命勉強しなくても、ただ学校を止めずに、勉強を楽しんでももらえれば良いと思います。一番重要な問題は小学校から中学校に進むことを励ますことです。カンボジアでの義務教育が中学校3年までにもかかわらず、学校の中退率が高いのが小学校と中学校です。中学校に進めば、なんとなく親が止めさせないと思います。中退の理由は高校の全国入学試験だと思います。大体中学生の8割しか高校にいけません。

一方、途中で小学校を止める子の最も重要な原因は年齢です。ちょっと年をとっちゃって、もう勉強しても間にあわないと思っている子供の親がカンボジアのどこでも多く見られます。その問題は5, 6歳のときに子供を学校に行かせないという親の問題でも考えられ、牛の世話とか親の手伝いで欠席しすぎて進学できず留年する理由もありうると思います。どのように改善できるかについて、やっぱり貧困の問題を解決する問題になるのです。私は先生たちに支援することが、本当に学校の中退を防ぐことができるのかは疑っています。



# 卒業式に出席 卒業アルバムを授与

8月25日、両学校にて卒業式が行われ、卒業生トロク小49人、タットム小19人に日本で作成した卒業アルバムを贈呈しました。自分のアルバムなど持たない子供達にとり何よりの記念品となることでしょう。この卒業アルバム制作にあたっては写真撮影等ASAP副理事長の池田五郎氏のご努力によることが多いことをご報告させていただきます。



## ～卒業アルバム、タットム小卒業生アンケート「将来の夢」より～

### 2008年<35人中>

先生 18人  
お医者さん 7人  
バレーのコーチ 1人  
サッカーのコーチ 1人  
商人 1人  
弁護士 1人  
NGOで働く 1人  
無回答 2人  
家族が生活できる様に  
仕事をしたい 3人

### 2009年<49人中>

先生 7人  
テラー 7人  
警察官 6人  
芸能人 6人  
歌手 5人  
技能技師 3人  
画家 2人  
農家 2人  
弁護士 2人  
医者 2人  
研究者 1人  
自転車の修理者 1人  
理容師 1人  
食品雑貨屋さん 1人  
運転手 1人  
無回答 2人



一年で「夢」の種類が増えたのに驚かされます。今年の3月にブンナリットさんの話（前ページに記載）を聞く機会を得て、子供達の夢がぐっと広がったのではないのでしょうか

## 教育活動支援金の支給

年2回の現地訪問の最大の目的は両小学校に勤務する先生を安定して確保する為に実地している『教育活動支援金』の給付です。何度も訪問し在職者名簿を製作してきてわかってきたことですが、先生になる人は若い女性が多く、その為に出産や転職で一年足らずでやめてしまうケースが少なくありません。中学を出て数か月の教育を受けて小学校の先生になり、一年でやめてしまう事が続くと経験を積んだ良い先生がなかなか育ちません。そこで、今回話し合いの上、教育支援金は一年以上務めている先生に対して支払うという事になりました。月々の金額は今まで通り30ドルです。ブンナリットさんの報告に「教育支援金に、子供が中退しないようにする効果があるかは疑問だ」とありました。私達は、安定して良い先生を確保する為への支援は、中退者をなくすという事には直接結びつかないかもしれませんが、先生達の勤労意欲を高め、指導力が向上することにより、その結果子供の学習意欲が増し学校を続けるということにもつながっていくことにもなると考えています。



## ルムチェック中学校訪問 ～大切に使われていた寄贈教科書～

タットム小、トロク小の卒業生が進学するルムチェック中学校には、教科書支援要請を受けて今年1月教科書617冊を寄贈しました。今回の訪問で、一冊一冊ASAPの捺印が押され大切に使われていることを確認してきました。この確認が非常に大切です。



## ムンタイン中学校訪問 ～遠方より通学の女生徒が抱える問題～

タットム校の一部の卒業生が進学する新しくできた中学校です。地区の村長さんと責任者の方を交えて学校の状態についての話を伺う事ができました。現在抱えている一番の大きな問題は、遠方より通学してくる女子生徒の宿舎がないという事でした。毎日舗装されていないでこぼこの道を5～20km通ってこなければならないそうです。お寺などに宿泊できる男子に比べ女子の問題は深刻で、それが理由で中退する生徒も少なくないとの事でした。ASAPで何か支援できないか今後の検討することになりました。

マザー ・ ツー ・ マザー

# Mother to Mother(裁縫プロジェクト)を通して

\*\*\*親の考え方を改めて未就学児童・中退者をなくすために\*\*\*

大 沼 陽 子



タットム校の貧しい家庭のお母さんをお願いしている手作り品を今回も沢山買い取ってくることが出来ました。買取り時にはお母さん達が抱きついて歓迎してくれる等、お母さん達と ASAP の信頼が確かなものになりつつあると実感しています。

縫い物担当は子供が在学し、中でも貧困家庭のお母さんをお願いしています。「ミシンに負けずに！」という言葉を目指して手縫いで縫いあげた品は本当に素晴らしいものです。

現地 ASAP 事務局のコンさんは、ポルポトの虐殺により父親が殺された為村の中でもかなり貧しい生活を送らなければなりません。しかし裕福な家庭で育ち教育の大切さを知る彼の母親は道で物を売りながらも、3人の子供の教育を諦める

ことはしなかったそうです。その結果、コンさんをはじめ兄弟は現在しっかりとした生活を送ることが出来るようになり、今では村の中でも豊かな家庭となっていると伺いました。

このコンさんの体験からも解るように、カンボジアの貧しい地区の小学校の就学率を上げ、中退者をへらすためには、まず親の考えを変えていくことが大切になります。

縫物を担当してくれているお母さん達は、内戦の為に教育を受ける機会を奪われ、全員字が読めなければ計算もできません。

この「裁縫プロジェクト」は、貧困家庭に仕事を見つけて現金収入の道を開くことが出来る上、訪問時にお母さん達と会い、「子供を学校へ」と直接働きかけることが出来ます。これは大変有意義なことと考えられます。

プロジェクトが始まって一年ですが、お母さん達の意識はかなり変わってきているといえます。

現在はタットム校のみで行なっていますが、トロク小の先生達から「トロク小でもお願いします」と要望されています。ASAP としては嬉しい申し出なのですが多摩川幼稚園一園では、必要な小物の量も限られます。そこで、小学校向けの小物の製作にも取り組み始め

ました。現在体操着入れ、ナフキン入れ、上履き入れ等の製作を依頼しています。

小さな試みですが、日本のお母さんとカンボジアのお母さんが手をつないで助け合っていくこのプロジェクトを、少しずつ広げていければと思います。

**小物の販売路を広げる為の情報提供やご協力をぜひいただければと思います。**





## お母さん手作りカレーによる歓迎会

式終了後今年も生徒のお母さん方の手作りカレーによる昼食会が開かれました。ココナッツの入った甘味のあるなかなかの味。言葉は通じなくても心が伝わってきます。火の通った料理という事もあり楽しませて頂きました。



## 子ども達オセロに初挑戦！

式終了後、ツアー参加の田村さん、村田さんが日本から用意したお手製のオセロ盤を使って、子供達に『オセロ』を教えました。子供達にとって初めての体験です。周りで見ている子供達も「ココ！ココ！」と指をさし、どうにか理解できたようでした。次回訪問時子供達がどう遊んでいるか楽しみです。



作るのが大変だった手作りのオセロ

## 小学校教師40年のベテラン先生語る

ツアー参加2回目の田野倉さんは小学校教師40年以上の方です。訪問2度目となる今回、両校の先生全員に「教師の資質について」語っていただきました。メモを取っている先生もいました。田野倉先生の思いが伝わったことを願います。



## ヤシの実はこんなところから…！！

学校を訪問すると先生達はいつもヤシの実のジュースをごちそうしてくれます。カンボジア式のウェルカムドリンクというところです。毎回気にせずに頂いていたのですが、今回それらがどこから来るのかが判明しました。それは何と学校の校庭から！！暑い中あんなに高い所から取ってくれていたのですね。感謝！感謝！です。





## 私の目を守ってくれて有難う！

学校の柵を修理していた時にバラ線が目に入り失明の危機に面していた先生に、ASAP が治療費を支援したことを覚えていらっしゃいますか？今回訪問で眼鏡がとれた元気な姿で感謝の言葉を頂きました。本当に良かったですね。



## 校長先生のお宅拝見！！

カンボジアの一般の村民の家庭はどのようなのでしょうか？今回は学校の校長先生の家庭を訪ね見せて頂きました。高床式の建物に上がる階段は細い板でできていて、隙間がある上かなり急です。寝るためのむしろの他家具らしいものはほとんどない部屋の中に、車のバッテリーにつながったテレビとDVDプレーヤーが置いてあったことが印象的でした。



## 新川橋病院医局の皆様から ボールペンの寄付を頂きました

訪問に先立ち新川橋病院医局の皆様から沢山のボールペンをご寄付頂きました。訪問先の小学校、中学校、孤児院で直接子供達に手渡してきました。日本のボールペンはカンボジアの物に比べて質が良いことは無論のこと、3色や4色の物は珍しい上、経済的にボールペンが買えない子供達もおりますので、とても喜ばれました。



## カルタで交流！フンペン日本語学校

ASAP がカンボジア訪問時にお世話になっているシンホンさんがプノンペンで開いている「光日本語学校」を訪ねし日本語を学んでいる学生と交流を持ちました。日本から持参した「世界遺産カルタ」ではかなり盛り上がったようです。光語学学校では随時日本語ボランティアを募集しているそうです。短期も歓迎という事です。ご興味のある方はASAP事務局にお問い合わせください。



# 平成21年度 通常総会のご報告

去る9月25日に多摩川幼稚園にて平成21年度の通常総会が開催され、平成20年度事業報告、収支決算、平成21年度事業計画、収支予算が承認されました。以下、事業報告、決算、事業計画、予算の概要です。詳しくはホームページに公開します。

## 1 20年度 事業報告(事業の成果)

平成20年度はシェムリアップ州のトロク小学校及び新設のタットム小学校並びに両校区の学齢児家庭に対して、教科書・教具等に加え、新入生への制服支給、卒業生全員に手作りの「卒業アルバム」を寄贈するとともに、教員給与の補助を通し人材の確保と教育の質向上を促しました。また、19年度に校舎増設の資金援助をしたタットム小学校の校舎の補修工事の費用を支援しました。新規事業として、貧窮世帯の学費を補助する目的で、母親に対して幼稚園で使用できるナフキン、コップ入れ等のグッズの製作をお願いし、それを園児の母親に買ってもらうという「マザー・ツー・マザー事業」を立ち上げました。上記の事業の遂行及びこれに係る調査・評価を迅速に実地するため、シェムリアップに現地事務所(スタッフの委託を含む)を新設しました。

## 2 平成20年度 収支決算(概要) (平成21年7月1日から22年6月30日まで)

(単位:円)

|                  |                  |                     |                  |
|------------------|------------------|---------------------|------------------|
| <b>I 経常収入の部</b>  |                  | <b>IIIその他資金収入の部</b> | <b>0</b>         |
| 1 会費収入           | 1,620,000        | <b>IVその他資金支出の部</b>  | <b>0</b>         |
| 2 寄付金収入          | 2,193,725        |                     |                  |
| 3 その他の収入         | 2,704            |                     |                  |
| <b>経常収入合計</b>    | <b>3,816,429</b> |                     |                  |
| <b>II 経常支出の部</b> |                  |                     |                  |
| 1 事業費            | 3,231,843        | <b>当期収支差額</b>       | <b>492,614</b>   |
| (1)教育機関運営支援      | 2,540,317        | <b>前期繰越収支差額</b>     | <b>3,503,156</b> |
| *校舎の補修費を含む       |                  | <b>次期繰越収支差額</b>     | <b>3,995,770</b> |
| (2)就学困難家庭支援      | 325,295          |                     |                  |
| (3)広報・啓発・調査・連絡調整 | 167,110          |                     |                  |
| (4)現地事務所運営       | 199,121          |                     |                  |
| 2 管理費            | 91,972           |                     |                  |
| <b>経常支出合計</b>    | <b>3,323,815</b> |                     |                  |
| <b>経常収支差額</b>    | <b>492,614</b>   |                     |                  |

### 3 平成21年度 事業計画(事業の実施方針)

引き続きトロク小学校、タットム小学校（一部中学校を含む）に対し、教科書・教具等の寄贈及び教員給与の補助を通し人材の確保と教育の質的向上を促します。また、現地スタッフが調査したプノンペンから30km程のところにあるワットタメイ小学校の校舎補修工事の費用の支援を予定しています。さらに、学齢児童および家庭に対しては、引き続き新入生への制服支給と「手作り卒業アルバム」の寄贈、「マザー・ツー・マザー事業」の継続と、懸案となっている困窮世帯の成績優秀な小学校高学年・中学生への奨学金支給を実現させながら、児童・父兄の啓発などの事業を継続し就学率の向上を図ります。シェムリアップの現地事務所を活用し、上記事業の実施と、およそ4ヶ月～6ヶ月に1度の頻度で日本から訪問する理事、会員及びボランティアの活動を支援します。さらに広報・啓発事業を継続し、支援の効率性を高め、国内の支援基盤を強化します。

### 4 平成21年度収支予算(概要) (平成21年7月1日から22年6月30日まで)

(単位:円)

|                  |                   |                     |                   |
|------------------|-------------------|---------------------|-------------------|
| <b>I 経常収入の部</b>  |                   | <b>IIIその他資金収入の部</b> | 0                 |
| 1会費収入            | 1,600,000         | <b>IVその他資金支出の部</b>  | 0                 |
| 2寄付金収入           | 2,000,000         |                     |                   |
| 3その他の収入          | 2,000             |                     |                   |
| <b>経常収入合計</b>    | <b>3,602,000</b>  |                     |                   |
| <b>II経常支出の部</b>  |                   |                     |                   |
| 1 事業費            | 4,820,000         | <b>当期収支差額</b>       | <b>-1,430,000</b> |
| (1)教育機関運営支援      | 2,790,000         | <b>前期繰越収支差額</b>     | <b>3,995,770</b>  |
| *校舎の補修費を含む       |                   | <b>次期繰越収支差額</b>     | <b>2,565,770</b>  |
| (2)就学困難家庭支援      | 1,340,000         |                     |                   |
| (3)広報・啓発・調査・連絡調整 | 470,000           |                     |                   |
| (4)現地事務所運営       | 220,000           |                     |                   |
| 2 管理費            | 212,000           |                     |                   |
| <b>経常支出合計</b>    | <b>5,032,000</b>  |                     |                   |
| <b>経常収支差額</b>    | <b>-1,430,000</b> |                     |                   |



## 支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。毎月一定額でも一括のご寄付でも構いません。



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

**\*注 両口座名が異なりますのでご注意ください**

## あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP 会報 Vol.5. 2009.10

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス [asap@tamagawa-kids.jp](mailto:asap@tamagawa-kids.jp)

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap>

■発行人 長谷川 安年